

信州シルクストーリー

《千曲川流域編》

信州の
歴史と今を
つなぐもの

信州シルクストーリー

「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界文化遺産に登録されるなど、近年、日本の近代化の歴史に光が当てられています。

その中でもシルクは、幕末に貿易港としての横浜がひらかれた当初から海外に輸出され、シルクを生産する各地の産業は、日本の近代化を牽引しました。

信州では、江戸期から養蚕が盛んに行われていたことを背景に、明治維新後には繭から生糸(シルク)をつむぐ製糸業が興り、各地域が競い合いながら近代化の時代を彩ってきました。

——そして、現在。

シルクの生産にわいていた風景は過去のものとなり、訪れる人々は、日本アルプスに代表される豊かな自然環境、善光寺などの文化財、そばや野沢菜などの食文化を、信州の魅力として楽しんでいます。

しかし、現在から歴史を振り返るとき、信州ではどの町にも、現代にいたるその途上にはシルクの歴史があるのです。

そんな歴史と今をむすぶ「信州シルク」にまつわるストーリーをご紹介します。

信州の蚕糸業

シルクを生産する「蚕糸業」は、「蚕種業」「養蚕業」「製糸業」の3つの分野から成り立っています。明治期から大正期にかけて、信州はすべての分野で全国一を誇る「蚕糸王国」でした。

「蚕種業」は、蚕の卵を製造する分野です。蚕は繭(さなぎ)から羽化する前に出荷されてしまうため、卵を採取することが専門の事業として発達しました。

「養蚕業」は、卵から蚕を孵化させて繭をつくるまで飼育します。蚕のえさとなる桑の葉を供給するために、信州では多くの畑で桑が栽培されました。

「製糸業」は、繭を煮て糸を取り出し、それをよりあわせて生糸にします。江戸期から養蚕が盛んだった信州では、手作業での製糸が古くからおこなわれていましたが、明治期に器械により短時間で大量の生糸を生産する技術が導入され、産業が大きく発展しました。



目次

○地域のシルクストーリー	
小諸	4
上田	6
松代	8
須坂	10
○温泉街にもシルクストーリー？ 別所温泉	12
○その他のシルクスポット	13
○さかのぼれば信州シルク	14

小諸

小諸市の概要

雄大な浅間山の南斜面に広がり、市の中央部を千曲川が流れる詩情豊かな高原都市。江戸時代には、中山道・北国街道・甲州街道の交わる交通の要所として城下町が形成され、明治期には、問屋商人の堅実な商風が評価され、商業の町として発展した。



小諸のシルクストーリー

「小諸なる古城のほitori 雲白く遊子悲しむ」と小諸を描いた作家・島崎藤村。百年の時を経た今でも、詩情に魅かれ多くの観光客が「懐古園（小諸城址）」を訪れています。

その懐古園の一画にある「小諸義塾記念館」をご存知でしょうか？

「小諸義塾」は、まだ学校制度の整っていない明治26年に開設された私塾（現代で言えば私立学校）です。島崎藤村は「小諸義塾」の教師として小諸に赴任し、この地で多くの作品を生み出しました。

この「小諸義塾」の支援者となったのが、江戸期から醸造業を営む豪商・小山久左衛門正友です。小山は、信州全域が生糸（シルク）の生産・輸出にわいていた明治23年に**器械製糸工場「純水館」**をつくり、小諸の製糸業の中核を担いました。そして、他の製糸工場が次々と廃業する中でも「純水館」は経営形態を変えながら昭和56年まで操業を続け、小諸の製糸業の終焉を見届けました。

現在、跡地や記念碑からしか「純水館」の存在を知ることができませんが、創業者・小山久左衛門正友の家業であった醸造業「**酢久商店**」は古い町並みの残る荒町で営業を続け、小諸屈指の豪商の姿を今に伝えています。

また、小諸では蚕種（蚕の卵）の貯蔵に使われた天然の冷蔵庫「風穴」が、現役で利用され続けています。氷地区にある「**氷風穴**」です。風穴による蚕種の貯蔵は、時期をずらした繭の生産を可能にし、生糸（シルク）生産能力の向上に貢献しました。

現在は、食品の保存などに利用されているほか、風穴で寝かせた「風穴そば」づくりの取り組みがはじまっています。隣にはかつての風穴小屋の跡地もあり、石垣の隙間から流れ込む山の冷気を直に感じることができます。

小諸には、町にも里にもシルクにまつわる歴史が息づいているのです。

小諸のシルクスポット



写真提供：酢久商店



酢久商店

創業以来、同じ場所で造り続けて三百有余年。歴史ある蔵を改修した工場併設のショップでは、自慢の「山吹味噌」のほか、信州各地の名産品も取り揃えています。

- しなの鉄道小諸駅から徒歩10分
- 営業時間：午前8時30分～午後5時（月～土曜）



出典：信州小諸シルクロードアーカイブ



氷風穴

地元の氷地区の人々の手によって、現在も使い続けられている風穴です。冷気が噴出してくるのは地下に永久凍土が存在するから、という説も。

- しなの鉄道小諸駅から車で10分（見学の際は、あぐりの湯こもる駐車場をご利用ください。氷風穴まで徒歩10分）
- 風穴小屋は利用中のため、内部見学不可

上田

上田市の概要

長野県東部の中心都市。北は菅平高原、南は美ヶ原高原という2000メートル級の山々に囲まれ、市の中央部を千曲川が東西に流れる。上田城跡のほか、「信州の鎌倉」と呼ばれる塩田平の寺社仏閣、信州最古の温泉と言われる別所温泉など歴史的遺産の豊富な町。

上田のシルクストーリー

大河ドラマ『真田丸』の舞台のひとつとして観光客でにぎわう上田城跡公園。ここは、地域の偉人を顕彰する場にもなっており、上田にゆかりのある人々に関する多くの碑や像が建てられています。そのひとつ、二の丸橋から櫓門へ向かう木々の陰にひっそりと佇んでいるのが「三吉米熊像」です。

上田は江戸後期から蚕種製造の中心地となり、教育の面でも信州の蚕糸業発展をリードしてきた町。そして三吉米熊は、明治25年に開校された日本初の養蚕指導者育成機関「小県蚕業学校」の初代校長を務めた人物です。三吉は、明治43年に設立された「官立上田蚕糸専門学校」でも教鞭をとり、昭和2年に68歳で亡くなるまで上田の地で蚕糸教育に力をそそぎ続けました。「小県蚕業学校」は上田東高校、「官立上田蚕糸専門学校」は信州大学繊維学部となりましたが、今もここから数多くの人材を全国各地へ輩出しています。

信州大学繊維学部は、「繊維」の名を冠する日本で唯一の学部です。構内には昭和4年に建てられた木造ゴシック建築の講堂が国の登録有形文化財に指定され、往時の姿をとどめています。内装には、桑や蚕、繭のモチーフが取り入れられ、いかにも蚕糸教育の殿堂らしいデザインです。

また、上田では現存する希少な製糸場の建物を見ることができます。国の重要文化財「旧常田館製糸場」です。世界文化遺産の富岡製糸場がレンガ造りの洋風建築なのに対し、旧常田館製糸場は、漆喰塗の土蔵のような日本らしいたたずまいを見せています。5階建ての白壁の繭倉庫を見上げ、この大きな倉庫に紡がれる時を待つ繭がぎっしりと詰まっていた頃に思いを馳せると、信州の製糸業がいかに盛大だったかがわかります。

「蚕都上田」とも称された上田。その歴史は、現在・未来へと受け継がれていきます。



上田のシルクスポット



出典：信州上田シルクロードアーカイブ



信州大学繊維学部講堂

信州大学繊維学部を象徴する建物として、現在でも卒業式がここで行われています。また、映画のロケ地としても使われることも多く、映画「ゼロの焦点」(2009年)、映画「ラストゲーム最後の早慶戦」(2008年)などに登場しています。

- 上田駅より徒歩15分
- 見学については要相談
問い合わせ：TEL/0268-21-5305
(信州大学繊維学部総務グループ庶務)



出典：信州上田シルクロードアーカイブ



旧常田館製糸場

国内最高層の木造5階建繭倉庫、大正時代末の鉄筋コンクリート5階建倉庫群など7棟が、国の重要文化財に指定されています。

- 上田駅より徒歩10分 ○料金：無料
- 開館時間：午前10時～午後4時
※内部見学希望の際はなるべく事前にご予約ください。
- 休館日：冬期(12～3月の土・日・祝日、12月25日～1月5日は休館)

松代

長野市松代地区の概要

長野市南部に位置し、三方を山に囲まれ、北側には千曲川が流れる水と緑の豊かな町。戦国末期に武田信玄が海津城を築き、江戸期は真田10万石の城下町として発展。真田氏による250年間の長きにわたる統治により、現在でもその文化風土が色濃く残る。



松代のシルクストーリー

江戸期・真田藩の城下町として栄えた松代。

『真田太平記』で知られる小説家・池波正太郎は、真田藩に関する作品も多数執筆しました。その中に『真田騒動 恩田木工』という作品があります。江戸中期に藩政の立て直しを成功させた真田藩の家老・恩田木工は、藩内での産業育成として養蚕を奨励し、山がちで水田の適地に乏しいこの地に広めました。『真田騒動記 恩田木工』には、荒れ地を桑畑に開拓する事業を視察するシーンも登場します。

明治維新後、開港した横浜からの輸出品として生糸（シルク）が注目されると、松代では、明治5年に操業を始めた「官営富岡製糸場」を手本に、旧藩士たちがいち早く器械製糸場の開設を目指し、明治7年に**西条村製糸場(後の「六工社」)**が設立されました。

この頃、富岡製糸場では、富岡で技術を学び地元に戻って技術を伝える伝習工女が募集されており、松代からは旧藩士の娘・和田英をはじめ16人が旅立っています。和田英は、後に「六工社」で指導者となり技術の普及に努めたほか、伝習工女時代を振り返る『富岡日記』を著しました。『富岡日記』からは、故郷に最新の技術を持ち帰ろうという強い決意が言葉の端々からうかがえます。

松代では城下の旧藩士やその家族たちが製糸業の発展に大きな役割を果たしました。商人ではなく武士の手によって産業が拓かれた…というのは意外なことかもしれませんが、恩田木工らの築き上げた真田藩の伝統が、それを後押ししたのかもしれません。

現在、松代の製糸業は失われてしまいましたが、和田英が生まれ育った家は「**旧横田家住宅**」として一般公開されています。また、松代では城下のあちこちに製糸場跡地の説明板が設置されています。「旧横田家住宅」の近くには、真田城下らしく、真田藩のシンボル「六文銭」を社名に取り入れた「**六文銭合資会社製糸場**」の跡地も見ることができます。

松代のシルクスポット



出典：信州松代シルクロードアーカイブ



旧横田家住宅

和田英(旧姓横田)の生家であるこの住宅は、松代藩中級武士の武家屋敷です。趣のある萱葺屋根が特徴となっており、国の重要文化財に指定されています。

- 長野駅から松代行きバス30分
「八十二銀行前」下車徒歩3分
- 開館時間：午前9時～午後5時
- 休館日：年末年始(12/29～1/3)
- 入館料：一般200円 小・中学生100円



出典：信州松代シルクロードアーカイブ



松代まち歩きセンター

松代を愛する地元住民が結成したNPO法人「夢空間松代のまちと心を育てる会」が運営する情報・交流センターです。ここでマップをもらって、製糸場跡地めぐりをどうぞ。

- 長野駅から松代行きバス30分
「木町」下車徒歩2分
- 開館時間：午前9時～午後5時
- 休館日：毎月第2・第4水曜、年末年始、お盆

須坂

須坂市の概要

長野市に隣接し、千曲川の支流松川、百々川の扇状地にひらけた町。江戸期は須坂藩主堀氏の陣屋町として、また大笹街道と谷街道の交差する地として栄えた。現在は、全国有数のリンゴ・巨峰の産地としても知られるほか長野市のベッドタウンにもなっている。



須坂のシルクストーリー

風格のある土蔵造りの町家が点在する“蔵のまち”須坂。着物や古民芸のコレクションを展示する「須坂クラシック美術館」もそんな町家のひとつです。大きな和風建築の重厚な梁や柱、座敷の襖の凝ったデザイン、展示されている色鮮やかな着物と懐かしさを感じる民具、それらが調和して古き良き時代の日本を感じさせてくれます。

この「須坂クラシック美術館」は、「製糸王」の異名を取った越寿三郎が大正期に所有し、子息の住まいとした邸宅です。越は、明治・大正期に須坂で一番大きな製糸会社のほか、県外にも進出し、「山丸組」という製糸会社グループを経営した破格の大事業家でした。

越が須坂の町にもたらしたものは、工場だけではありません。工場の夜間操業のため、明治36年に信濃電気会社（現在の中部電力の前身）を設立し、工場だけでなく町にも電気の明かりをともしました。この他、越は須坂の町への水道や鉄道の敷設にも尽力しました。

しかし、シルクストックキングなど高級商品の原料となる生糸（シルク）の生産は、景気による浮沈が激しく、製糸業は「生死業」と揶揄されたほどでした。越は会社が苦境に陥るたびに私財を投げ打って経営の立て直しに努めました。山丸組は昭和4年の世界恐慌の影響で倒産、須坂の町に失業者があふれました。

その失業者救済工事としてつくられたのが、「臥竜公園」の竜ヶ池です。現在の「臥竜公園」は桜の名所として知られる市民の憩いの場ですが、その誕生の背景にはシルクの歴史があったのです。園内の臥竜山の中腹には越寿三郎の銅像があり、須坂の町をいまでも見つめ続けています。

須坂は、町全体がシルクの歴史の上に成り立っています。製糸業による急速な町の発展に道路計画が追いつかず、「巨大迷路の町」とも呼ばれているとか。シルクがつくった迷路の町、蔵を訪ね歩きながらの歴史散歩はいかがでしょうか。

須坂のシルクスポット



出典：信州須坂シルクロードアーカイブ

須坂クラシック美術館

横浜市在住の日本画家・岡信孝氏より、古民芸や銘仙を中心とした着物のコレクション約2000点の寄贈を受け、展示を行っています。

- 長野電鉄須坂駅より徒歩5分
- 開館時間：午前9時～午後5時
(1・2月は午前9時30分～午後4時30分)
- 休館日：木曜日（祝日の場合は開館）、
年未年始（12/29～1/3）
- 入館料：300円 ※中学生以下無料



写真提供：須坂市観光協会

臥竜公園

桜並木が『日本さくら名所100選』に選ばれ、池の周りには“ソメイヨシノ”を中心に160本、公園全体で約600本の桜が楽しめます（見頃は4月中旬から下旬頃）。また、竜が臥しているように見える臥竜山の美しい松は竜ヶ池に映え、『日本の名松100選』にも選定されています。

- 長野電鉄須坂駅よりバスで7分
「臥竜公園」下車

温泉街にも シルクストーリー？ 別所温泉

明治・大正期にかけて、別所温泉では蚕種(蚕の卵)製造や養蚕を生業とする家が多くありました。“信州の鎌倉”と称され、温泉と古刹めぐりを合わせて楽しめる別所温泉ですが、ここにもシルクの歴史がひそんでおり、現在もその名残を見ることができます。



別所温泉のシルクスポット



出典：信州上田シルクロードアーカイブ

倉澤家蚕室

旅館の立ち並ぶ別所温泉街の一番奥に見えるのが倉澤家蚕室。蚕種製造家・倉澤運平によって大正5年に建てられ、蚕の飼育や桑の保存に利用されてきました。今も温泉街の風景の中で、ここが“シルクの里”でもあったことを伝える象徴的存在です。
○別所温泉駅より徒歩10分
○個人宅のため、敷地外より外観のみ見学可



出典：信州風穴アーカイブ

氷沢風穴

明治初期に築かれた国内最古の蚕種貯蔵用風穴のひとつ。蚕の孵化時期を調整するため、近隣の多くの蚕種業者に利用されました。近年の崩壊しつつある姿を知った地元住民の嘆願により、平成20年に山の冷気の吹き出す石垣部分が復元されました。
○別所温泉駅より徒歩45分
(別所温泉駅では電動アシスト自転車をレンタルできます)

その他の シルクスポット

信州は、「蚕系王国」とも呼ばれ、全域でシルクの生産が盛んだった土地。今回ご紹介できなかった地域にもさまざまなシルクの歴史があります。



出典：信州上田シルクロードアーカイブ

上塩尻蚕種製造民家群 (上田市)

上塩尻地区は、上田市の旧北国街道沿いの集落。江戸期から蚕種製造が盛んで、明治・大正期にはここから全国へ蚕種が送り出されました。今でも屋根の上に越屋根(気抜き屋根)を載せた蚕室造りの建物があちこちに見られます。「蚕都上田」の原点とも言える場所です。
○しなの鉄道西上田駅より徒歩5分



出典：信州上田シルクロードアーカイブ

海野宿(東御市)

江戸期、北国街道の宿場としてにぎわった海野宿は、明治・大正期には広い建物を利用した養蚕・蚕種製造の町となりました。道の中央を用水が流れ、江戸期の宿場の建物と、明治以降の蚕室造りの建物が調和した人々の暮らしの歴史を感じる町並みです。
○しなの鉄道大屋駅または田中駅より徒歩20分



写真提供：長野県立歴史館

長野県立歴史館(千曲市)

「科野の里歴史公園」にある博物館です。「常設展示室」の近代コーナーには、松代にあった六工社製糸場の実物大復元模型が展示されています。
○しなの鉄道屋代駅または屋代高校前駅から徒歩25分
○開館時間：午前9時～午後5時
(12～2月は午前9時～午後4時)
○休館日：月曜日(祝日は開館)、祝日の翌日、年末年始
○入館料：一般300円 大学生150円
※高校生以下無料

さかのぼれば 信州シルク

「信州シルク」が歴史と今をむすんでいるのは、町の歴史だけではありません。信州ではあちこちで、思わぬところに「信州シルク」の歴史にルーツを持つものがかくれています。

信州りんご

信州でりんご栽培が本格化するのには、明治30年代ごろからですが、当時はシルクの生産が伸びていた頃で、畑は一面、蚕のえさとなる桑畑でした。しかし、昭和恐慌（昭和5年）による養蚕・製糸業の不振などをきっかけに、桑からりんごへの転作がすすみ、広大なりんご畑が誕生しました。

信州味噌

関東大震災（大正12年）では、東京の味噌工場が壊滅的な被害を受けました。そこで、救援物資として諏訪の製糸工場に女工の給食用に仕込んでいた味噌を送ったところ、大変な評判になりました。これが、「信州味噌」の名が広まるきっかけになったそうです。

公共施設 商業施設

製糸業の衰退により各地の工場は閉鎖されてしまいましたが、その跡地は規模の大きさを活かし、ショッピングセンターやホテルなど広い敷地を必要とする施設に転用されています。例えば、上田の昭栄製糸の工場跡地はイオン上田店に、松代の六文銭合資会社製糸場跡地は松代文化ホールになっています。

機械工業

製糸業から撤退した後、その技術や技能を他の分野に活かし、事業を転換して現在も経営を続けている企業もあります。上田の信濃絹糸紡績は「シナノケンシ」と社名を変更し、自動車部品のモーターなどで高いシェアを誇る企業に、「旧常田製糸場」を所有する笠原工業は、電子機器や発泡スチロール製品を製造する企業となっています。

富岡製糸場

2014年に富岡製糸場は世界文化遺産に登録されました。現役の製糸場としては1987年にその役目を終えています。その当時のオーナーは片倉工業。長野県岡谷市発祥の製糸会社です。片倉工業は、工場閉鎖後18年の間、富岡製糸場の建物や機械を守り続け、2005年に富岡市に寄付しました。



太陽と大地の聖地温泉で
デトックス&チャージ!



別所温泉では「デトックス&チャージ」と題し、皆様の心と体の健康を応援する企画を実施しています。

<http://www.bessho-onsen.jp>

別所温泉観光協会 TEL/0268-38-3510

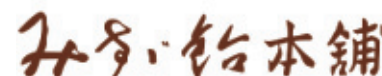


<http://www.konaya.jp>

〒384-0008 小諸市東小諸甲1581-3
TEL/0267-22-0585 FAX/0268-22-1780



大西製粉は、氷風穴で寝かせた「風穴そば」づくりに取り組んでいます。



JR 上田駅より徒歩2分。みすゞ館本舗は、蚕都の駅前風景を守り続けて行きます。

<http://misuzuame.com>

TEL/0268-23-2150

みすゞ館本舗の2棟の蔵倉
(明治27年、国登録有形文化財)



神秘的な景観と伝統につつまれた湯の里

信州 鹿教湯温泉

<http://www.akeyu.or.jp/>

鹿教湯温泉旅館協同組合
〒386-0322
長野県上田市鹿教湯温泉
TEL/0268-44-2331
FAX/0268-45-3712



信州の旅はかけゆ温泉発のバーデンツアーズで
齋藤ホテル バーデンツアーズ
信州・鹿教湯温泉

<http://www.baden-tours.jp/>

ご予約・お問い合わせ
TEL/0268-44-2241
FAX/0268-45-3540
〒386-0323
上田市鹿教湯温泉1387-2



小諸市 上田県 松本須坂

制作・発行：シルクロード長野ネットワーク

発行日：2017年3月30日

メール：silknet@nagano.ac.jp

〒386-1298 長野県上田市下之郷658-1 長野大学内

信州シルクロードアーカイブ <http://www.mmdb.net/silknet/>

信州シルクロード資源のオープンデータをご活用いただけます。

協賛企業：

 **大栄製作所** (小諸市)

 **株式会社 有賀技建** (上田市)